

# Structure Kansai No.138 2018.7

JSCA関西ホームページに会員皆様の意見、質問に答えるコーナーを開設しております。ご活用下さい。

## 2018年度(一社)日本建築構造技術者協会関西支部支部総会 5月19日開催



構造デザイン発表会



支部総会



山浦支部長の挨拶



関西支部 支部長

「1年、次の1年」  
株安井建築設計事務所  
山浦 晋弘



関西支部 副支部長

「一年を終えて」  
株大林組  
嶋崎 敦志



関西支部 副支部長

「大地震への備え」  
有桃李舎  
栲田 洋子

日頃、JSCAならびに関西支部の活動にご理解、ご協力を賜り、ありがとうございます。

関西支部長に就任して丸1年が経過しました。大震研活動については、委員会メンバーの尽力で国交省との意見交換を経て「告示波を超える長周期地震動に対する検証法」の説明会を本部と中部支部で実施し、広くその成果を知ってもらうきっかけになりました。また、来年度発刊予定の「(仮称)建築構造用語事典2」では、社会や次の世代につなぐための道具づくりをしようと、会員みなさんに執筆をお願いしました。

さらに、秋の研修会では四国支部と交流を図るべくコラボ企画を検討するなど、今年は各方面に「つなぐ」ことを意識して活動しているところです。

JSCAは会員の自発的な活動で成り立っており、私たち構造技術者の地道な活動なしに地位向上はあり得ません。あと1年任期を残していますが、引き続きみなさまのご協力をお願いいたします。

関西支部副支部長として活動を始め、早一年が経ちました。この一年、事業委員会を中心に支部の活動に関わらせて頂くことにより、その前の事務局長の業務の引継ぎを円滑に行うことができました。今年度も引き続き、時間の許す限り事業委員会に参加し、支部の様々な活動に関わらせて頂ければと思います。

昨年度、「(仮称)建築構造用語事典2」の発刊事業がスタートしました。15年前に同辞典の執筆のお手伝いをさせて頂きましたが、当時と今の構造技術者をとりまく環境の違いを感じています。社外活動を比較的自由に行っていた当時に比べ、「働き方改革」のもと労働時間削減を迫られている今では、構造技術者の社外活動に対する意識も変わってきて当然かもしれません。JSCAでの活動は、労働ではなく自己研鑽であるのですが、事業の企画にあたっては、今の環境にも配慮して、より魅力ある企画にする必要があると感じています。

支部の幹部の方たちとしっかり協議して各事業を進めていきますので、会員の皆様におかれましては、積極的なご参加をお願いいたします。

この原稿の締め切り間際の昨日、大阪北部地震が発生しました。今も一部の地域ではガスや水道が止まり、余震が続いています。この紙面が皆様に届く頃には事態が収束し、日常の暮らしが戻っていることを願います。突き上げるような衝撃に続く激しい横揺れは、私自身が体験した最大級のもので、大阪が震源という意味では初めての当事者となりました。

震度6弱を観測した北区をはじめ大阪市内には、弊社が耐震改修をした木造の戦前長屋や町家がたくさんあります。それらが心配で一軒ずつ無事を確認しているところに、山浦支部長から対策本部を作るべきかどうかの相談があり、はっ!としました。忘れていたのですが、それはJSCA関西支部の「震災対応マニュアル」を初めて適用した支部長の初動対応でした。幸い今回は不要ということになりましたが、次の危機への備えとなる貴重な予行演習となりました。副支部長としての重要な任務を肝に命じるところです。「震災対応マニュアル」は阪神淡路大震災の後、諸先輩方によって作成されました。今回の体験をもとに精査し、次の世代に手渡したいと考えています。

■JSCA関西構造デザイン発表会2018

優秀賞の紹介

モノコック構造による  
15mキャンチレバー屋根  
「ネットトヨタ新大阪  
高槻店」  
(株)竹中工務店  
木原 隆志



1.建築計画

本建物は、交通量の多い国道沿いに建つカーディーラーの店舗である。

3つの庇を階段状に連続させ、層状の空間を作り出すことで、国道に対して奥行きのあるファースードを形成するとともに、屋外展示場（外部）とショールーム（内部）の内外境界を曖昧にし、限られた領域に都市と連続した開放的なスペースを生み出すことを狙いとした。（写真1、2）

2.構造計画（屋外展示場）

最も国道寄りの屋外展示場（第一の庇）は国道に対するステージであり、スピードを持って走る車に対しても視認性を確保することや、展示車を出し入れする際の使い勝手を考慮し、無柱として15mのキャンチレバー屋根とした。ただし、ショールーム部分の屋根（第二・第三の庇）との連続性を考慮し、見付を合わせるため、梁成を最小化する必要があった。

15mものキャンチレバーでありながら、梁成を最小化するため、長期変形はもちろんのこと、跳出先端で強風等による振れ変形の懸念があった。

そこで、ガイドとなるH形鋼フレームの両フランジ面にPLを溶接し、全体でBOX断面としての性能を発揮するモノコック構造を採用した。（図1、図2）

これにより、跳出長さ15mに対し、550mmの梁成に抑えらるとともに、通常のH形鋼フレームと比較して7倍程度のねじれ剛性を有する架構を実現した。

3.構造計画（ショールーム）

ショールーム部分については、柱を極力少なく、細くすることで存在感を薄め、一見すると同じ跳出架構が3つ連続しているかのように見せることを狙った。（写真3）

屋根面ブレースの剛性を高め、ショールーム部分と比較して剛性の高い事務所部分に預けることで、ショールーム部分の地震時の変形を抑え、柱を小径（130φ）とした。



写真1 外観（建物入口側より）



写真2 内観（ショールーム）

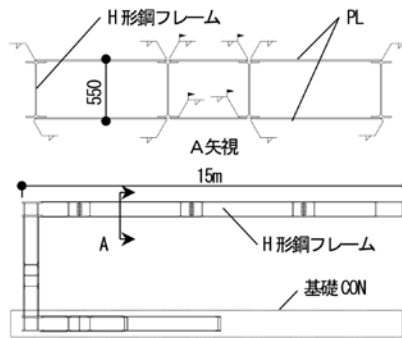


図1 構造骨組概要

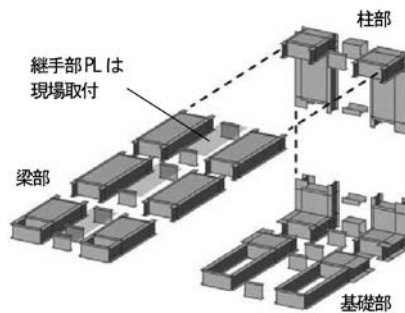


図2 部材パーツ割



写真3 外観（建物正面より）

■JSCA関西構造デザイン発表会2018

優秀賞の紹介

CLTパネル工法の設計自由度を  
拡張する構造デザイン  
「竹中研修所匠増改修」



(株)竹中工務店  
國府田 まりな

1.はじめに

本建築は、既存の研修所（地上2階）に、地上3階（各階10室、合計30室の居室）、地下1階（ミーティングルーム等）を増設した計画で、自然豊かな「清和台の森」に位置する。地上躯体すべてにCLTパネル工法を採用し、木の温もりに包まれ自然環境と共生する建築である。CLTパネル工法の告示には制限項目が多く、構造計画における自由度が低い。自然に包まれたぬくもりのある建築空間の実現のために行った工夫を紹介する。

2. CLTあらかわしの内装に、金物が露出しない接合方法を採用

本建築は準耐火建築物であり、燃えしろ設計により壁・天井（床）CLTをあらかわしとした。CLTパネル工法では、パネルの接合に多数の金物を使用するが、接合金具が仕上げ面に露出すると美観を損うことが課題であった。そこで、遮音性能向上のために採用した戸境の二重壁、設備納まりのために採用した二重床を利用し、更に施工手順を指定することで、壁内・床下に金物を納めた。



図1 建物外観

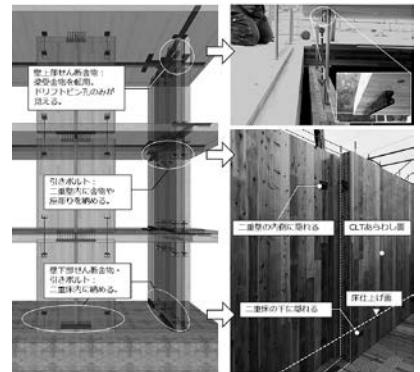


図2 金物を見せない工夫



壁上部は、天井あらかし面へのL形金物の露出を避けるため、告示の範囲内で使用できるドリフトピン形式の特殊金物を採用し、内装仕上げに接合金物が一切見えない納まりとした。

### 3. 垂壁、梁型のない架構形式により、自然と一体になる大開口を実現

CLTパネル工法は、梁型として腰壁や垂壁が必要となるため、ポツ窓形式の外観が一般的である。本建築では、内部空間としても自然を体感できるよう、大開口を有するフラットスラブ形式を採用した。

床と壁のみの構成とする場合、連層壁の境界部となる床パネル部には隣り合う壁のロッキングにより大きな面外せん断が発生するが、床の面外せん断耐力が非常に小さいため、壁が十分に水平力を負担する前に、床の面外せん断破壊が発生する。そこで、壁-壁間の境界に面外補強鋼板プレートを配置することでせん断補強し、壁の水平力負担を向上させた。また、CLTパネルの弱軸方向に構造用合板を重ね合わせることで2方向応力に抵抗させ、建物全周に跳ね出しスラブを配置した。

これらより、ルート3設計に対応しつつ、壁量を過剰とすることなく壁と床のみのプレーンな外観を構成するとともに、スラプトスラブの大開口を通して、光や緑を身体全体で感じることができる木質空間を実現した。

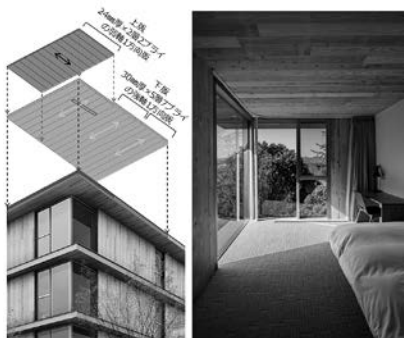


図3 2方向跳ね出しスラブの構成

図4 居室内観



図5 面外せん断補強プレート施工状況

## ■JSCA関西構造デザイン発表会2018

### 優秀賞の紹介

#### PRC壁でクルーザーをつくる

芦屋ペイコート倶楽部

チャペル棟

(株)日建設計

佐々木 隆允



### 1. はじめに

本建物は会員制リゾートホテルの敷地内にあるチャペルである。建物形状は敷地に隣接する芦屋・西宮マリーナに停泊するクルーザーをモチーフとしている。

私の設計テーマは、

- ① 流線形のクルーザーを構造体で美しく表現するにはどうすればよいか？
- ② 特徴的な外観を生かしてチャペルという非日常的な内部空間を作りたい！

の2点であった。以下、このテーマに基づいて設計時に考えたことを紹介する。



写真1 外観写真(手前:チャペル)



写真2 内観写真

### 2. スリットを遮らない梁

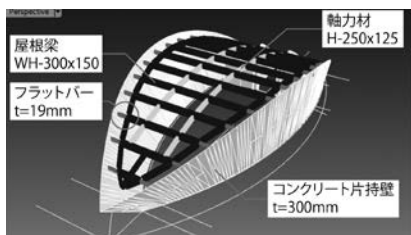


図1 構造計画

本建物は、コンクリート造の片持壁と鉄骨造による屋根で構成している。屋根は2つの外壁の頂部に架けた単純梁で支持している。この梁の端部をフラットバーにして、スリットの光を遮らないよう計画した。しかし、端部をフラットバーにすると軸直交方向の水平力を壁に伝達できない。そのため、屋根中

央に2本の軸力材を設けて、建物入り口両側のRC壁に屋根全体の水平力を伝達する計画とした。

### 3. 目地のない壁をつくる

意匠設計者からは、クルーザーの外観により近づけるため、外壁RC壁には目地を設けないことが求められた。目地をなくすと、当然クラックが入ることが予想された。そのため、クラックの原因となる乾燥収縮とクリープによる引張応力を、応力解析によって把握することにした。解析の結果、壁下側中央部の長手方向に1.5N/mm<sup>2</sup>程度の引張応力度が生じることが分かった。その結果を考慮して、壁下側中央部の長手方向にアンボンドPC鋼線を配置し、引張応力をほぼキャンセルするプレストレスを導入した。

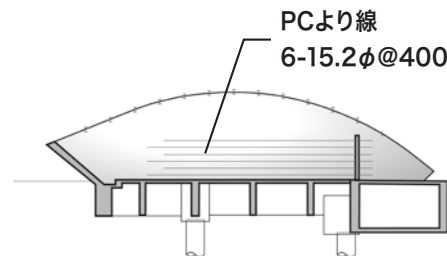


図2 PC鋼線配置

### 4. 型枠工事

外壁の形状は、平面の船形形状と屋根のR形状から決定される自由曲面となっているため、直線的な細幅型枠を少しずつずらして曲面を作る方法を想定していた。実施工では、型枠の合理化を考慮して形状を若干変更することで、パネル化した普通型枠を支保工で支えつつ並べるシンプルな計画を提案いただき、継ぎ目の目立たない型枠を実現することができた。



写真3 型枠施工

### 5. おわりに

目地をなくすことで、流線形のクルーザーを美しく実現できた。また、形状を生かした内部はやわらかく包み込むような空間となり、スリットからのゆらめく光によって、チャペルという非日常的な空間を演出することができたと思う。



株松田平田設計  
大阪事務所  
国本 正男

講師 国立大学法人京都大学  
林 康裕 教授

演題 内陸地殻内地震と南海トラフの地震の被害の傾向と対策

日時 平成30年2月23日(金)

14:30~16:30

場所 株式会社 学芸出版社

## 1 はじめに

例年開催される地域会である京滋会の講演会です。

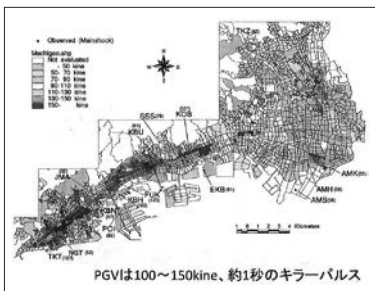
概ね京都・滋賀にゆかりのある講師による硬軟交えた内容となっています。今回は硬の部類でしたが、林先生はなるべくかみ砕いて頂いたように思います。

先生の「今の大学生にとっては、阪神・淡路大震災は過去の地震例になっている」との発言は、実際に体験した世代としては隔世の感を覚えずにはいられませんでした。

## 2 最近の既往地震

1995年の阪神・淡路大震災と2011年の東日本大震災写真等の紹介。

林先生の印象として、前者において鉄骨造の被害状況が大きく、予想外であったとのことでした。



また、前者の被害状況から推定した地震動マップの提供がありました。これによると、PGV(疑似応答速度スペクトル)が100~150kineとなり、極めて大きく当時の相場観から一部疑問視された観測値を正当と裏付けるものであったことが紹介されました。さらに、京都府を例に挙げ、内陸型地震の被害状況とPGVとの相関性大との見解を、林先生は披歴されました。阪神・淡路大震災以降、地震動の知見がそれ以前に比べて相当大きいもので

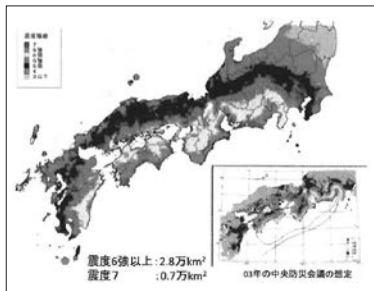
あると定まりつつあるとのことでした。阪神・淡路大震災以前より実務をされていた構造設計者も同様の印象をお持ちだと思います。

## 3 内閣府の新想定

従来の想定震源域が大きく拡大されたことについて説明されました。強震断層域面積の拡大、津波断層域の追加、時間差発生地震連動を反映したものとなっています。



この新想定による満潮時の津波高さマップが紹介されました。これによると、日本経済の中心地の大都市や交通インフラ動脈に対する地震の影響を、容易に感じることが出来ます。昨今喧しくいわれているBCPの重要性を、可視的に判断できるマップです。

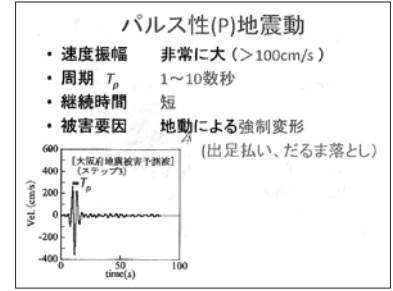


## 4 パルス性地震動

阪神・淡路大震災での中高層建築物の被害要因の一つとして挙げられているパルス性地震動の紹介です。

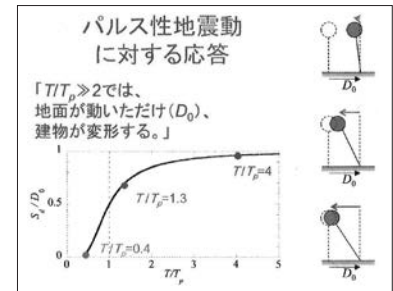
断層破壊が進行する方向の断層近傍において発生する、顕著なパルス状の速度波形を有するものであり、振幅が超大で継続時間が短い特徴があるのが一つの定義ですが、いまいちピンときませんでした。林先生からの予測波を用いた説明で、何

とか理解できるかなといったところでした。



パルス性地震動の固有周期が3秒程度だと、低層の短周期建築物より高層・超高層建築物に被害が出る可能性が高いようです。また、一般の方が先進性を持つと考える超高層建築物に被害発生となれば、建築技術に対する信頼性の喪失につながると警鐘を鳴らされました。

建物固有周期/パルス性地震動固有周期>2では地盤変形量が建築物変形量となり、免震構造では地盤変形量=免震層変形量となるので従前の免震層可能変形量では不足する恐れがあるので設計上の大きな留意事項と感じました。



## 5 最後に

京滋会の講演会は、JSCA関連分の中でもっともアットホームなものであり、参加を楽しみにしています。

講演内容も多岐にわたっており、期待を裏切らないものとなっています。出来れば、事前に演題のみならず、簡単でもいいのでキーワード等を事前告知して頂けると有難いと思います。今回のように、国内トップクラスの研究者をお招きしての講演会であれば、事前に予習できればもっと理解を高められるように感じました。もっとも受講者のレベル次第で、私以外の皆さんが同様に感じになっているかはわかりませんが。

最後に、林先生におかれては体調の優れない中、長時間にわたり貴重なお話や、そこまでおっしゃいますかというような踏み込んだ内容をお話いただきました。通常の講演会では味わえないような内容で、楽しく拝聴できました、お礼申し上げます。



## ■JSCA関西支部2017年度事業報告書

(2017年4月～2018年3月)

- 1.2017年度支部総会 0519 建設交流館 出席者351名(委任状279通)
- 2.支部幹事会 0509 1113
- 3.運営会議(旧四役会) 0404 0509 0605 0703 0807 0904 1002 1113 1204 0115 0205 0305
- 4.事業委員会 0419 0612 0706 0803 0911 1012 1107 1211 0206 0313
- 5.技術委員会 0424 0626 0828 1023 1218 0226
- 6.広報委員会 0420 0720 1019 0116
- 7.耐震診断・補強判定委員会関西支部 0420 0720 0921 1019 1116 1221 0118 0215 0315
- 8.木造住宅レビュー委員会 0405 0627 0707 0725 1116 1206 1219 0130 0207
- 9.構造レビュー委員会 0424「地盤の急激な変化が想定できなかった妥当性について」
- 10.大震研委員会
  - ・報告会 0415 1102 0209 0302 0313
  - ・主査連絡会 0531 0713 0803 1211 0124 0308
  - ・WG活動
    - WG1(地震動・基礎) 0623 0721 1220 0129 0214 0226
    - WG2(RC系) 0614 0724 0927 0130
    - WG3(S系) 0621
    - WG4(免震構造) 0403 0601 0911 1211 0122 0227 0326
- 11.研究会・記念事業
  - ・定例研究会 0519 JSCA関西構造デザイン発表会2017 参加者219名
  - ・支部設立35周年記念事業「JSCA関西35!～次世代へのバトンパス～」1201 参加者165名
  - ・新年研究会 0119 JSCA賞受賞者講演 参加者112名
- 12.現場見学会
  - 0721 島屋6丁目計画(USJホテル) 参加者40名
  - 0209 堺市民芸術文化ホール 参加者22名
- 13.研修会 1110-1111 舞鶴(赤煉瓦建造物について学ぶ) 参加者33名
- 14.支部報 Structure Kansai No.133, 134, 135, 136 発行
- 15.技術委員会各分科会
  - ・地盤系分科会 0621 0920 1213 0314
  - ・RC分科会 0526 0907 1128 0316
  - ・金属系分科会 0713 1128 0320
  - ・情報システム分科会 0926 1121 0327
  - ・構造計画分科会 0418 0711 1010 0116
  - ・耐震設計分科会 0721 0929 1222 0314
  - ・PC・工業化分科会 0721 0929 1222 0314
  - ・木構造分科会 0405 0607 0802 1004 0207
  - ・法制分科会 0418 0620 0629 0905 0912 1109 0125 0320

※下線付きは拡大分科会を示す。
- 16.サテライト活動
  - ・京滋会 0223 「内陸地殻内地震と南海トラフの地震の被害の傾向と対策」講演会 参加者31名
- 17.講習会
  - ・JSCA建築構造士定期講習会 0826 参加者92名
  - ・木造軸組構法の新しい耐震設計法がマスターできる実務講習会 0405 0607 0802 1206 0207 参加者 計70名
  - ・スキルアップセミナー 1010 参加者35名
  - ・本部技術委員会・第12回報告会2017(web講習会) 1026 参加者5名
  - ・本部技術委員会・第13回報告会2017(web講習会) 1212 参加者12名
  - ・若手技術者育成講座 0214 参加者20名
- 18.親睦会
  - ・定例研究会懇親会 0519 参加者121名
  - ・大震研委員会懇親会 1102 参加者20名
  - ・支部35周年懇親会 1201 参加者98名
  - ・賀詞交歓会 0119 参加者92名
  - ・京滋会懇親会 0223 参加者15名
- 19.研究受託
  - ・大阪建築物震災対策推進協議会 限界耐力計算レビュー委託業務 6件
- 20.他団体への委員・講師の派遣  
委員派遣
  - ・大阪市「大阪市耐震改修支援機構」 上田尚延, 野島千里, 山浦晋弘, 横田友行
  - ・京都市「京町家耐震診断レビュー委員会」 樫原健一, 田村佳英
  - ・神戸市「神戸市耐震改修検討委員会」 瀬川輝夫, 田辺太一, 山田正人
  - ・神戸市「建築物安全安心推進協議会」 石本泰宏
  - ・日本建築総合試験所「建築構造性能評価委員会」 近藤一雄, 田代靖彦, 山浦晋弘
  - ・日本建築総合試験所「既存建築物耐震診断等判定委員会」 上田博之

- ・日本建築総合試験所「判定助言委員会」 近藤一雄, 島野幸弘, 田代靖彦, 田辺太一, 西村勝尚, 山浦晋弘
  - ・日本建築総合試験所「基礎技術性能認証委員会」 後藤雅夫
  - ・日本建築総合試験所「コンクリート工実務研修委員会」 上森 博
  - ・大阪府建築士会「専攻建築士審査評議会」 山浦晋弘
  - ・大阪府建築士会「CPDプログラム認定評議会」 横田友行
  - ・京都府建築士会「専攻建築士審査評議会」 中森康正
  - ・兵庫県建築士会「専攻建築士審査評議会」 山田正人
  - ・大阪工業大学「専門委員会」 横田友行
- 講師派遣
- ・大阪建築物震災対策推進協議会「被災建築物の応急危険度判定講習会」 福本義之
  - ・大阪府建築士会「既存木造住宅の耐震診断・改修講習会(限界耐力計算)」 小倉正恒, 北山宏貴, 鈴木直幹, 横田友行
  - ・大阪府建築士会「既存木造住宅の耐震診断・改修講習会(一般診断法)」 野島千里, 横田友行
  - ・奈良県建築士会「既存木造住宅の耐震診断・改修講習会(限界耐力計算)」 樫原健一, 横田友行
  - ・宮崎県建築士会「木造建築物の限界耐力計算実務講習会」 上田尚延, 横田友行
  - ・鹿児島県建築士会「木造建築物の限界耐力計算実務講習会」 野島千里
- 21.関連団体との交流
    - ・在阪建築関連15団体事務局会議 0907 0308
    - ・在阪建築関連15団体会長・支部長午餐会 1106
    - ・在阪建築関連15団体2018年新年交礼会 0104

## ■JSCA関西支部2018年度事業計画書(案)

(2018年4月～2019年3月)

- 1.2018年度支部総会 0518 建設交流館
- 2.支部幹事会 0507 秋頃実施予定
- 3.運営会議(旧四役会) 0402 0507 0604 0702 0806 0910 1001 1105 1203 0107 0204 0304
- 4.事業委員会 0423 0611 0709 0820 0918 1015 1106 1210 以降随時実施予定
- 5.技術委員会 0424 0625 0827 1022 1217 0225
- 6.広報委員会 0419 0718 以降1回/各季実施予定
- 7.耐震診断・補強判定委員会関西支部 0420 以降1回/月実施予定
- 8.木造住宅レビュー委員会 0405 以降随時実施予定
- 9.構造レビュー委員会 随時実施予定
- 10.大震研委員会 0602 報告会  
主査連絡会, WG活動 随時実施予定
- 11.研究会 0518 定例研究会 建設交流館  
新年研究会 JSCA賞受賞者講演 1月実施予定
- 12.現場見学会 2回/年 程度実施予定
- 13.研修会 1109-1110 (高松・直島)実施予定
- 14.支部報 Structure Kansai No.137, 138, 139, 140 発行予定
- 15.技術委員会各分科会
  - ・地盤系分科会 4回/年 程度実施予定
  - ・RC分科会 4回/年 程度実施予定
  - ・金属系分科会 3回/年 程度実施予定
  - ・情報システム分科会 4回/年 程度実施予定
  - ・構造計画分科会 3回/年 程度実施予定
  - ・耐震設計分科会 4回/年 程度実施予定
  - ・PC・工業化分科会 4回/年 程度実施予定
  - ・木構造分科会 3回/年 程度実施予定
  - ・法制分科会 4回/年 程度実施予定
  - ・拡大分科会 技術委員会として3回/年 程度実施予定
- 16.サテライト活動
  - ・奈良会 1回/年 程度実施予定
  - ・京滋会 1回/年 程度実施予定
  - ・兵庫会 1回/年 程度実施予定
- 17.講習会
  - ・JSCA建築構造士定期講習会 0825
  - ・木造軸組構法の新しい耐震設計法がマスターできる実務講習会 0405 以降随時実施予定
  - ・スキルアップセミナー 夏頃実施予定
  - ・若手技術者育成講座 2月実施予定
  - ・本部技術委員会・報告会2018(Web講習会) 随時実施予定
- 18.親睦会
  - ・定例研究会懇親会 0518 建設交流館
  - ・大震研委員会懇親会 0602 以降随時実施予定
  - ・賀詞交歓会 1月実施予定
  - ・京滋会懇親会 秋頃実施予定
  - ・奈良会懇親会 1回/年 実施予定

19. 研究受託

- 大阪建築物震災対策推進協議会 限界耐力計算レビュー委託業務
随時実施予定

20. 他団体への委員・講師の派遣

委員派遣

- 大阪市「大阪市耐震改修支援機構」
上田尚延, 野島千里, 山浦晋弘, 横田友行
京都市「京町家耐震診断レビュー委員会」 榎原健一, 田村佳英
神戸市「建築物安全安心推進協議会」 石本泰宏
日本建築総合試験所「建築構造的評価委員会」
近藤一雄, 田代靖彦, 山浦晋弘
日本建築総合試験所「既存建築物耐震診断等判定委員会」 上田博之
日本建築総合試験所「判定助言委員会」
近藤一雄, 野島幸弘, 田代靖彦, 田辺太一, 西村勝尚, 山浦晋弘
日本建築総合試験所「基礎技術性能認証委員会」 後藤雅夫
日本建築総合試験所「コンクリート工事実務研修委員会」 上森 博
大阪府建築士会「専攻建築士審査評議会」 山浦晋弘

- 大阪府建築士会「CPDプログラム認定評議会」 横田友行
京都府建築士会「専攻建築士審査評議会」 中森康正
兵庫県建築士会「専攻建築士審査評議会」 山田正人
大阪工業大学「専門委員会」 横田友行
講師派遣
大阪建築物震災対策推進協議会「被災建築物の応急危険度判定講習会」 福本義之
大阪府建築士会「既存木造住宅の耐震診断・改修講習会(限界耐力計算)」 小倉正恒, 北山宏貴, 鈴木直幹, 横田友行
大阪府建築士会「既存木造住宅の耐震診断・改修講習会(一般診断法)」 野島千里, 横田友行
奈良県建築士会「既存木造住宅の耐震診断・改修講習会(限界耐力計算)」 榎原健一, 横田友行

21. 関連団体との交流

- 在阪建築関連15団体事務局会議 9月頃, 3月頃実施予定
在阪建築関連15団体会長・支部長午餐会 秋実施予定
在阪建築関連15団体2019年新年交礼会 0104 実施予定

■2018年度関西支部 体制

●幹事

- 支部長 山浦晋弘 (安井建築設計事務所): 支部担当理事
副支部長 嶋崎敦志 (大林組)
幹事 榎田洋子 (桃李舎)
上森和博 (日本設計)
大住和正 (大林組)
太原克則 (東畑建築事務所)
小島直樹 (清水建設)
島野幸弘 (竹中工務店)
田代靖彦 (日建設計)
竹島剛剛 (鹿島建設)
寺田均 (昭和設計)
西本信哉 (大成建設)
細野久幸 (SDネットワーク)
松浦敏彦 (ティールームアーク)
松原由典 (竹中工務店)
満田衛資 (満田衛資構造計画研究所)
宮崎英也 (山田建築構造事務所)
安野郷 (柳池組)
横田友行 (能勢建築構造研究所)

- 監査 近藤一雄 (東畑建築事務所)
辻幸二 (日本建築総合試験所)

- 支部顧問 近藤一雄 (東畑建築事務所)
角彰 (日本建築総合試験所)
谷尾俊弘 (イオリ建築設計事務所)
辻英一 (安井建築設計事務所)
馬瀬芳知 (馬瀬構造設計事務所)
八木貞樹 (八木建築構造研究所)

- 本部担当理事 上田博之 (竹中工務店)

- 事務局 秋田智 (安井建築設計事務所) 局長
伊藤敦 (日建設計)
伊藤祥二 (大林組)
岩佐裕一 (日本建築総合試験所)
大植奈緒 (コンステック)
貝谷淳一 (能勢建築構造研究所)
木下隆嗣 (東畑建築事務所)
九嶋壯一郎 (竹中工務店)
竹内信一郎 (清水建設)
石原邦子 (JSCA大阪事務所)

●事業委員会

- 委員長 島野幸弘 (竹中工務店)
委員 上森博 (日本設計)
小島直樹 (清水建設)
塚越治夫 (日建設計)
富澤健 (大林組)
西本信哉 (大成建設)
宮崎英也 (山田建築構造事務所)
山本康一郎 (能勢建築構造研究所)

●技術委員会

- 委員長 松原由典 (竹中工務店)
委員 山下靖彦 (竹中工務店) ...RC
吉田聡 (日建設計) ...PC:工業化
中村吉秀 (大林組) ...金属系
石村大 (日建設計) ...耐震設計
山中三聡 (SDネットワーク) ...地盤系
篠原昌寿 (フレームワークス) ...情報システム
岸中政寛 (山田建築構造事務所) ...構造計画
上田尚延 (竹中工務店) ...法制
(日本建築総合試験所) ...木構造

●広報委員会

- 委員長 大荒和正 (大林組)
委員 大瀬進 (大林組)
伊藤栄治 (安井建築設計事務所)
慶祐一 (竹中工務店)
川正明 (鹿島建設)
田丸久司 (Ks構造設計事務所)
軸丸久司 (日建設計)
田代靖彦 (日建設計)
橋本宗明 (北條建築構造研究所)
平浩二 (イオリ建築設計事務所)
安野郷 (柳池組)
柳沢信行 (竹中工務店)
山田細功 (山田建築構造事務所)
吉田聡 (日建設計)

●構造レビュー委員会

- 委員長 安井雅幸 (大林組)
委員 阿波野昌幸 (近畿大学)
浦巽利男 (うらたつみ建築技研)
小倉正恒 (日本建築総合試験所)
榎原健一 (SERB)
日下哲 (竹中工務店)
近藤一雄 (東畑建築事務所)
嶋崎敦志 (大林組)
新保勝浩 (ネオフォルム構造技研)
角幸二 (日本建築総合試験所)
前野敏元 (竹中工務店)
榎田洋子 (桃李舎)
宮崎英也 (山田建築構造事務所)
八木貞樹 (八木建築構造研究所)
山浦晋弘 (安井建築設計事務所)
横田友行 (能勢建築構造研究所)

●木造住宅レビュー委員会

- 委員長 横田友行 (能勢建築構造研究所)
委員 石田健吾 (コンゴロエンジニアリング)
上田尚延 (日本建築総合試験所)
大崎修 (大崎建築設計事務所)
小倉正恒 (日本建築総合試験所)
榎原健一 (SERB)

- 北山宏貴 (大林組)
四宮忠明 (大林組)
鈴木直幹 (竹中工務店)
田村浩史 (清水建設)
田村佳英 (悠計画研究所)
鳥羽瀬公二 (鳥羽瀬社・建築)
野島千里 (野島建築設計事務所)
榎田洋子 (桃李舎)

●大震研委員会

- 委員長 西村勝尚 (摂南大学)
委員 園田隆一 (安井建築設計事務所) ...WG1
上田博之 (竹中工務店) ...WG2
福本義之 (大林組) ...WG3
大住和正 (大林組) ...WG4

●危機管理委員

- 委員長 前野敏元 (竹中工務店)
委員 小倉正恒 (日本建築総合試験所)
嶋崎敦志 (大林組)

●定期講習WG

- WG長 鈴木直幹 (竹中工務店)
委員 嶋崎敦志 (大林組)
白沢吉衛 (日建設計)

●耐震診断委員会関西西部会

- 部会長 安井雅明 (大林組)
副部会長 宮崎英也 (山田建築構造事務所)
阿波野昌幸 (近畿大学)
浦巽利男 (うらたつみ建築技研)
小倉正恒 (日本建築総合試験所)
榎原健一 (SERB)
日下哲 (竹中工務店)
近藤一雄 (東畑建築事務所)
嶋崎敦志 (大林組)
田代靖彦 (日建設計)
辻幸二 (日本建築総合試験所)
前野敏元 (竹中工務店)
峯隆俊 (峯構造技術研究室)
山浦晋弘 (安井建築設計事務所)
横田友行 (能勢建築構造研究所)

●編集委員会関西西部会

- 部会長 白沢吉衛 (日建設計)
委員 新井康輔 (能勢建築構造研究所)
阿波野昌幸 (近畿大学)
大堀太志 (竹中工務店)
小倉正恒 (日本建築総合試験所)
田邊太一 (大手前大学)
田村浩史 (清水建設)
富澤健 (大林組)
西本信哉 (大成建設)
山浦晋弘 (安井建築設計事務所)

●国際委員会(本部)

- 委員 嶋崎敦志 (大林組)





## ●事務局だより

### 1.2018年度支部総会

0518 建設交流館 出席者61名  
(委任状298通)

### 2.支部幹事会

0507(18:00~20:00)  
場所:安田ビルB1階会議室

### 3.運営会議

0402(18:00~20:00)  
場所:安田ビル2階JSCA関西事務局  
0507(17:00~18:00)  
場所:安田ビル2階JSCA関西事務局  
0604(予定18:00~)  
場所:安田ビル2階JSCA関西事務局

### 4.事業委員会

0423(18:00~19:50)  
場所:安田ビル2階JSCA関西事務局  
内容:事業報告書案・事業計画書案確認、研修会企画会議、ほか  
0611(予定18:00~)  
場所:安田ビル2階JSCA関西事務局  
内容:現場見学会および研修会の企画会議、ほか

### 5.技術委員会

0424(18:00~20:00)  
場所:安田ビル2階JSCA関西事務局  
内容:分科会活動・拡大分科会打合わせ・用語集作業依頼の確認  
関西デザイン発表会進行確認  
0625(予定18:00~)  
場所:安田ビル2階JSCA関西事務局  
内容:分科会活動・拡大分科会打合わせ

### 6.広報委員会

0419(18:00~19:00)  
場所:日建設計B2会議室  
内容:1. Structure Kansai  
NO.138号 編集会議  
2. Structure Kansai  
NO.139号 企画会議  
0718(予定18:00~)  
場所:大林組6階会議室  
内容:1. Structure Kansai  
NO.139号 編集会議  
2. Structure Kansai  
NO.140号 企画会議

### 7.耐震診断・補強判定委員会関西部会

0517(18:00~19:00)  
場所:安田ビルB1階会議室  
内容:耐震診断・補強計画判定の報告(1棟)

0719(予定18:00~)  
場所:安田ビルB1階会議室  
内容:耐震診断・補強計画判定の報告

### 8.木造住宅レビュー委員会

0404(17:30~18:30)  
場所:安田ビルB1階会議室  
内容:今後の活動方針について

### 9.大震研委員会

#### ○報告会

0602(14:00~17:00)  
場所:御堂ビル1階 いちようホール  
出席者75名  
内容:関西地域における告示波を超える長周期地震動に対する試設計等

#### ○主査連絡会

0409(18:00~19:00)  
場所:安田ビル2階JSCA関西事務局  
出席者5名  
内容:報告会の内容検討  
0516(18:00~19:30)  
場所:安田ビル2階JSCA関西事務局  
出席者5名  
内容:報告会の内容検討

#### ・WG活動

○WG1(地震動・基礎)  
0402(18:00~20:00)  
場所:安井建築設計事務所  
2階会議室 出席者7名  
内容:長周期地震動に対する試設計(基礎構造)

0524(18:00~20:00)  
場所:安井建築設計事務所  
2階会議室 出席者4名  
内容:長周期地震動に対する試設計(基礎構造)

#### ○WG2(RC系)

0515(18:00~19:00)  
場所:安田ビル2階JSCA関西事務局  
出席者11名  
内容:長周期地震動対策の試設計

#### ○WG3(S系)

0417(18:00~20:30)  
場所:安田ビルB1階会議室  
出席者12名  
内容:OS1地域での鉄骨造建物の試設計について  
一般化塑性ヒンジ理論による復元力特性モデルについて  
鉄骨柱の復元力特性および履歴特性モデルについて

#### ○WG4(免震構造)

0326(18:00~20:00)  
場所:竹中工務店 大阪403会議室  
出席者10名  
内容:長周期地震動に対する検証法試設計例  
0416(18:00~20:00)  
場所:竹中工務店 大阪403会議室  
出席者11名  
内容:長周期地震動に対する検証法試設計例  
0514(18:00~20:00)  
場所:竹中工務店 大阪403会議室  
東京7C会議室 出席者14名  
内容:長周期地震動に対する検証法試設計例

### 10.研究会・記念事業

#### ・定例研究会

0518 JSCA関西構造デザイン発表会  
2018 参加者220名

### 11.支部報

Structure Kansai  
No.137(2018.4)発行  
No.138(2018.7)発行予定

### 12.技術委員会各分科会

#### ○地盤系分科会

0314(15:30~17:30)  
場所:竹中工務店B1階T'sイノベーションサロン 出席者26名  
内容:杭頭半固定構法の設計・施工  
大阪平野における既製杭施工における地盤リスク

#### ○RC分科会

0622(予定18:00~)  
場所:安田ビルB1階会議室  
内容:性能評価委員会について・技術委員会報告など

#### ○金属系分科会

0620(予定18:00~)  
場所:大林組大阪本店6階プレゼンテーションルーム  
内容:長周期地震動に対する鉄骨造の設計について

#### ○情報システム分科会

0327(18:00~20:00)  
場所:安田ビルB1階会議室 出席者12名  
内容:(仮)RC耐震診断基準2017年改訂版対応プログラムについて

#### ○構造計画分科会

0713(予定13:40~16:00)  
場所:日本ビラー工業(株)三田工場  
内容:「免震構造と傾斜すべり支承の見学・説明会」

#### ○耐震設計分科会

0314(15:30~17:30)  
場所:竹中工務店B1階T'sイノベーションサロン 出席者26名  
内容:杭頭半固定構法の設計・施工  
大阪平野における既製杭施工における地盤リスク

#### ○PC・工業化分科会

0418(18:00~19:00)  
場所:竹中工務店B1階T'sイノベーションサロン 出席者9名  
内容:「建築構造用語事典」第二弾の執筆担当者割り振り等

#### ○木構造分科会

0404(18:30~20:20)  
場所:安田ビルB1階会議室  
出席者20名  
内容:1. JSCA関西木造住宅レビュー、講習会および木構造分科会について  
2. その他(告示改正について)

#### ○法制分科会

0320(15:00~17:00)  
場所:安井建築設計事務所 出席者7名  
内容:緩勾配屋根の積雪荷重割増、民法の大改正、片持ちスラブの厚さL/10の等有無(告示とRC規準の違い)、SRFシンボ「耐震設計(基準)の現状と提案」、建築基準制度部会情報などについて意見交換

#### 0523(15:00~17:00)

場所:安井建築設計事務所 出席者7名  
内容:告示15号業務報酬基準、地盤面誤認の監理者責任、大阪府適判指摘事例集、本部法制委員会からアンケート、学会シンポジウム「海外の構造基準と耐震設計の事例紹介」などについて意見交換

#### 0727(予定15:00~)

場所:安井建築設計事務所  
内容:建築法制に関する最新情報紹介と意見交換

※下線付きは拡大分科会を示す。

### 13.講習会

○木造軸組構法の新しい耐震設計法がマスターできる実務講習会  
0404 参加者10名 0606 参加者8名

### 14.懇親会

#### ○定例研究会懇親会

0518(18:00~19:30)  
建設交流館702号 参加者121名

#### ○大震研委員会懇親会

0602 参加者21名

### ●編集後記

お忙しい中、執筆にご協力頂きました方々に厚く御礼申し上げます。

JSCA関西構造デザイン発表会2018は参加者が200名を超え、大変に盛況でした。今年度も魅力的な企画が進められていますので、積極的な活動支援をよろしく願います。(秋田、山田能)

発行 (一社)日本建築構造技術者協会  
関西支部事務局

〒550-0003

大阪市西区京町堀1-8-31(安田ビル)  
Tel 06-6446-6223 Fax 06-6446-6224  
Mail jscaweb@kansai.email.ne.jp  
URL http://jscakansai.com/